

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」
編集長・真鍋康利さん



んでね」と言われるのが何よりうれしいと言つ男です。実に気のいいやつですが、こんな弱みがあったんですね。



先日、友人と飲みました。彼はこの春、長く勤めていた会社を退いて悠々自適の日々を送っており、日時は私にお任せ。このため延び延びになっていた約束でしたが、それが果たされたのです。実際はただの酒席ですが、秋に開く大学時代の「ほぼ同期会」の打ち合わせという名目です。

12年ほど前に始まったこの会は、「浪人した」「留年した」「何度も留年して結局放校になった」など様々な人間がいる幅広い年齢層を誇る楽しい会です。道内はもとより本州からもやってきます。しばらくぶりに顔を合わせる人間もいて、誰だかよく分からないこともありすが、少し話すと、一気に半世紀近くをタイムスリップする光景がそこ(こ)で見られます。



彼はこの会の発案者であり、幹事長として真ん中にどっかと座り、私はその番頭役として受付、進行、写真撮影を担当します。幹事長が現役を退いたのだから、もうやらないのかと思っていたのですが、何人かから「今年はいつやるんだ？」と問い合わせがきたらしく、やっぱり開催することにしました。

その打ち合わせはすぐ終わり、彼がおもむろに孫の映っ

たスマートフォンを差し出します。「SNSなるものをやってみよう。教える」と言うのです。私の方が少し年長なので、おっさんとしては荷が重いのですが、何とかデビューのお手伝いできました。そこから隠れていた本題が始まりました。無趣味の彼は毎日の時間をもてあましているらしく、「何かやりたいけれど何をどう始めたらいいのかわからない」と言います。カルチャーセンターに行くのもおっくうだし、町内の活動も気が進まないそうです。

例えば、写真を始めるとしたら、どんなカメラを買って何を撮ればいいのか。絵を描くとしたら、自分史を書くとしたら、家庭菜園を始めるとしたら――。「最初の一步を指南する教室をお前が主催して、何か始めるきっかけを作ってくれ」と言うのです。大事な友人の頼みです。私が始める教室はどんなものがいいのか、何を基準に講師や場所を選ぶか、まだ何も決まっていりませんが、力だけはいっています。幸い、何にでも広く興味を持つ私――どれも深くはありませんが――に期待してくれるありがたい話なので、具体化に向けて頭をフル回転させています。